

令和8年度第1回連絡協議会議事録

(日 時) 令和8年 8月 14日(金) 14:00 ～ 16:00	
(場 所) 静岡県中西部発達障害者支援センターCOCO (一部リモート開催)	
(参加者) 委員 13 名 (4 名リモート参加)	
令和8年度 第1回 静岡県中西部発達障害者支援センターCOCO 連絡協議会	
1. 開会	開会(14時) 司会(COCO事務局)
2. 委嘱状交付・委員紹介	委嘱状交付・委員より自己紹介
3. 議事	1. 令和7年度相談支援の状況及び家屋等支援事業報告 (1) 相談支援の状況 (2) 家族等支援事業報告 (相談支援について) ・今後相談件数の数値見込みは如何か。地域が主体となるケースとCOCOで支援していくケースの違いを教えて欲しい。 →相談件数は、全国的な傾向から見ても横ばいで推移していくと見込んでいる →地域の支援体制の中で展開がないケースでは、地域の支援機関を巻き込みながらやっていくようにしている。一方、COCOの直接支援は、地域の支援機関との関係性がこじれてしまう、地域で孤立しているケースが多い。COCOで抱え込まず地域支援機関とは関係構築しながら支援していき、やがて地域が主体となるよう働きかけている。 ・キーパーソンは、本人に対してと支援者間においてで異なる場合もあり、支援者間での確認と共有は必要であると考える。 ・高校生年代頃からは自分の個性として障害をとらえなおして自立して生きていけるような支援が重要。職場で不適応を起こし受診した人の障害の診断受容は子どもの診断受容とは違った問題がある。自分の大事な特性として受け入れてやっていくため診断を生かしていかなければならない。 ・義務教育から高校へ繋がる情報に差が出てくる。中学や保護者から情報があがってくることは重要。 ・SNSを見て、自分が発達障害ではないかと思う生徒も多い。高校生になったら自己理解をできるようになってくる。高校年代に自己理解を深め、大学につなげていきたい。 ・大学連携について、自ら配慮を申請できる生徒はいいが、保護者が学校に伝えても本人には伏せていることもある。 ・COCOと協働している高校大学連携連絡会を通し、支援者が本人に応じた支援の形を変えることで助けられる人がいる体制を考えていきたい。 ・発達障害者の就労支援について、障害者雇用自体は年々確保されている。都市部では転職エージェントを利用した就職をする方が増えている。就労継続、職場定着で課題が生

じているケースが多くなってきている。

- ・企業からのニーズとして社員研修の実施の希望や採用後に発達障害がわかった従業員に対し、職場での対人関係、仕事とのミスマッチをどうしたらよいかの相談がきている。
- ・在職中の職員研修の位置づけで OFFJT としての職業準備支援、OJT の職場の支援としてジョブコーチ支援をパッケージで提案している。在職者への支援が増えていくと予想している。
- ・近年 AI に相談を受けてから相談に来る人がいる。学生に聞いても AI に尋ねていることが多い。正しいことかの検証もないので危険である。

(児童期支援について)

- ・児発センターが乳幼児健診事後に介入する中で“発達の気づきから支援につなぐ初期相談”が連携できている。市町と協働し発達の気づきから支援につなぐシステムの再構築、情報の整理や児童発達支援事業所との連携など、関係機関との連携強化が重要。
- ・放課後児童クラブ指導員の実態として、研修がない。発達障害について個人的に勉強しているが具体的な対処までは分からない状況である。保護者がお子さんの障害を受容できずに、攻撃的になる方もいる。その中で苦勞している職員も多いと感じている。放課後児童クラブ向けの向け研修が広がってくれと嬉しい。

(強度行動障害支援について)

- ・強度行動障害支援について、今後全県的な議論として広域の支援人材の選定、中核的人材の育成、研修の体制などについて検討を進めていく。
- ・強度行動障害支援において、地域では各事業所の支援者に集まっていただき、共有し方向性を検討するなど、責任者を集めて体制づくりをしていきたい

(医療体制について)

- ・現在、インターネット上の精神科が乱立している。大人の精神科の医療をどのように支えていくか、診療を受ける体制を整えていくことが大きな課題。児童精神科医だけではなく大人の発達障害を見る精神科医の先生にも協力してもらい入っていただくことが大切。COCO 支援にも入ってもらえるよう考えていきたい
- ・リワーク支援を利用している方で、オンライン診療を利用し医療と十分に相談できていない方も出てきている。医療と福祉の間にまたがる問題を整理することが難しい。

2. 令和8年度以降のCOCO事業計画について（委員からの意見）

- ・ペアレントメンター派遣事業はとても有意義な活動であると感じている。親が受容できず取りこぼされている子どもがいる。正しい情報と正しい知識を広めてほしい
- ・居場所について、高機能の方は障害者だけのサークルは行きたくないと感じられる方も多い。特性もあり、相互に楽しく活動できるかは難しい。子どもの年齢によって、親がついていくこともできない。仲介役のような形をCOCOが担ってくれるとありがたい。
- ・5歳児健診と同時に勧められているのが小学校との「架け橋プログラム」。子どもに小学校に入っていく不安を聞くととても具体的であり、子どもの思いを大切にしながら進める必要がある。

	・ 小学校において園でやっている遊びを取り入れながら、スムーズに学校生活に慣れられるように。子どもに聞くという視点が大切だと思っている。 ・ 就学後どんな困難が予想されるのか、5 歳児健診で明らかにして受け渡すことが大切。5 歳児健診で初めて検出される子もいる。すでに満杯の児童精神科をどのように割り振るのかを決めて、5 歳児健診にどうアジャストしていくのか検討しなければならない。 ・ 子どもの診断が分かった時はショックだった。5 歳児健診なら親御さんも薄々感じているかもしれない。その際に、ペアレントメンターの活用が有効であると考え。親の受容につなげる意味でもペアレントメンターの派遣等を検討してほしい。
4. その他	①世界自閉症啓発デーの活動について報告 ②第2回連絡協議会日程 令和9年度3月5日（金）14：00～ 集合及びリモートのハイブリッド形式による開催予定
5. 閉会	閉会（15 時 55 分）